

「新京都大納言」機械収穫技術の確立に向けて

高品質でウイルス抵抗性を有する小豆新品種「新京都大納言」の生産拡大のため、省力的な機械収穫技術について検討しています。

南丹市八木町の現地試験では、旺盛な生育を示し倒伏しやすい「新京都大納言」の品種特性に対応した、ビーンハーベスタやビーンスレッシャなどを活用する小規模機械化体系の改良と実証を普及センターと協力しながら進めています。現在、ほ場内での簡易乾燥法を試験していますが、切断した暗渠パイプを通すことで乾燥の効果が上がりました。

また、一層の省力化が図れるコンバイン収穫技術に対応するため、所内試験においては播種期の違いによる生育量や成熟期の変動とコンバイン収穫との関係について調査を行っています。



左上：現地試験における「ビーンハーベスタ」での収穫状況（11月10日撮影）

左下：暗渠パイプ等を活用したほ場内での簡易乾燥（11月26日撮影）

右：所内試験における「コンバイン」収穫状況（11月20日撮影）